

# 腹痛について



# 痛み (疼痛) に関して

## 疼痛の種類

- 体性痛：鋭い痛み。主に体表への刺激により起こる痛み。局在がはっきりしている。
- 内臓痛：鈍い痛み。主に内臓が感じる痛み。局在はあいまい。腹膜の伸展や平滑筋の収縮などで起きる。
- 関連痛：内臓に刺激が加えられた際に、内臓と離れた皮膚表面や筋肉に特別な感覚や痛みを感じる。

## 原因による疼痛の分類

- 侵害受容器 (痛みを感じる場所) を介する痛み：外的刺激による痛み、炎症による痛み。  
→外的刺激を解除したり、炎症を抑えれば痛みは治まる。
- 侵害受容器を介さない痛み：神経障害性疼痛。触刺激を痛みと感じる。電撃痛、灼熱痛が特徴。  
→神経障害により脳・神経に様々な変化がおこる。不明な点も多く、疼痛管理が難しい。



体性痛

ここが痛い



内臓痛

ここらへんが痛い



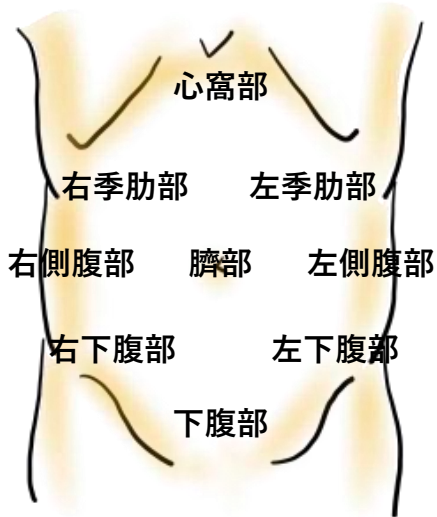
関連痛

(心臓、お腹の病気なのに)  
違うところが痛い

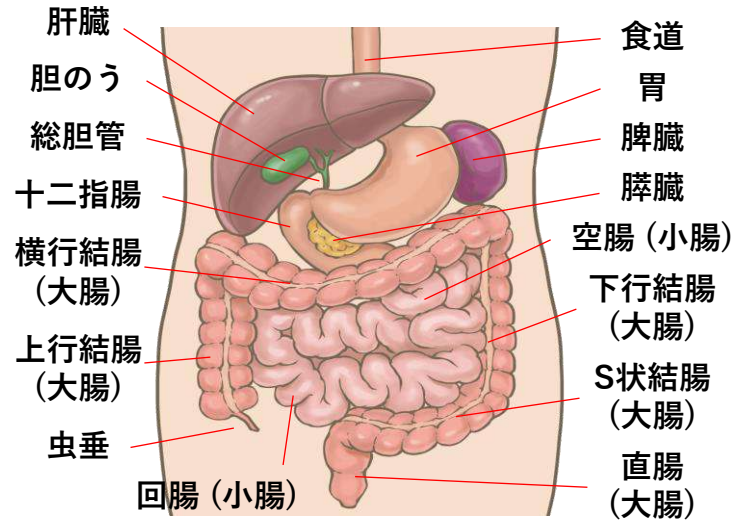
# 腹痛に関して大事なこと

お腹にはたくさんの臓器があり、そこに何かがおこると腹痛が出現する。

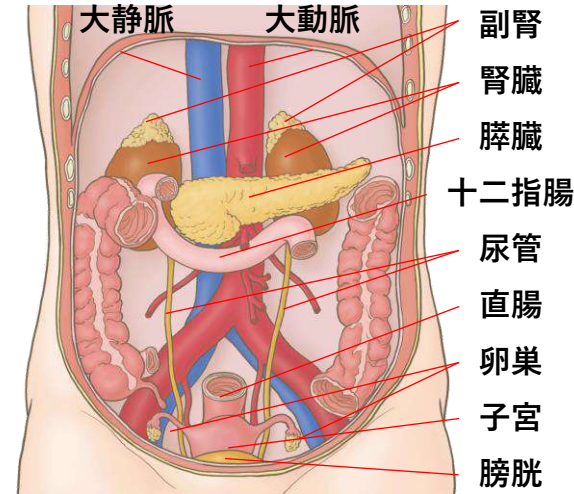
体表



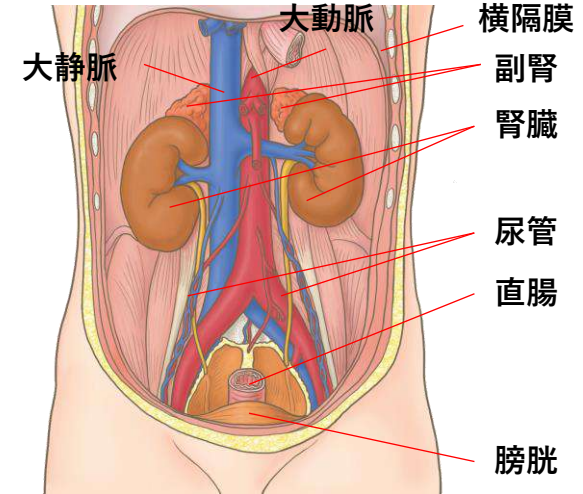
腹腔内臓器(へそ側の臓器)



後腹膜臓器(背中側の臓器)



後腹膜臓器(背中側の臓器)



しかし、**お腹以外の臓器(肺や心臓)や全身性疾患も腹痛をおこすことがある。**

➡ **腹痛 = お腹の臓器の問題は間違い。** 併存する症状を総合的に判断して診断する。

# 腹痛の程度に関して

急いで医療機関を受診すべきかどうか(緊急性があるかどうか)を考える。

- ① 持続する痛くて耐えられないほどの腹痛
- ② 突然発症したこれまでに経験したことのない腹痛
- ③ 歩いた時やお腹を触った時にお腹にひびく腹痛
- ④ お腹が膨らんで腹痛を伴うもの(全体的に膨れている、一部が膨らんで戻らない)
- ⑤ 下記の症状を伴う腹痛  
胸痛、嘔吐、吐血、頻度の多い下痢、下血、血尿、発熱、冷や汗、意識低下 など

上記の腹痛が出現した場合はできるだけ早く医療機関を受診することをお勧めします。  
場合によっては緊急手術等が必要になります。お薬手帳などを準備して来院して下さい。

- ※ 持病がある方、妊婦さん、高齢の方は、上記所見でなくても受診を考えて下さい。
- ※ もちろん気になる場合はいつでも受診して下さい。

# 腹痛の診断の助けになるもの

腹痛の性状や環境をふまえて、様々な病気の可能性を考える。

## ① 腹痛の性状、状況に関して

- ・いつから始まったか。
- ・急か、徐々に痛くなってきたか。
- ・ずっと痛いか、痛くない時間があるか。
- ・痛みの場所、痛いところは移動しているか。
- ・どんな痛みか（鈍い締め付けるような痛み、鋭い刺すような痛み、など）。
- ・身体の向きをで痛みが変わるか。
- ・他に症状はあるか（嘔吐、吐血、便秘、下痢、下血、発熱、胸痛、背部痛など）。



## ② 腹痛をきたした環境に関して

- ・心当たりはあるか：飲み物、食べ物、体が冷えてるか、運動した後か など。
- ・持病はあるか：手術後、心筋梗塞の既往、生活習慣病 など。
- ・内服薬はあるか：痛み止め、血液がさらさらになる薬、胃薬、サプリメント など。
- ・精神的なストレスを感じているか。
- ・女性の場合は、妊娠している可能性はあるか。



# 腹痛に対する考え方 ①

性別、年齢、過去の病歴をふまえて、可能性の高い疾患を考える。

## ① 若い女性

必ず妊娠していないかどうかを評価する（妊娠歴、最終月経の確認）。検査が赤ちゃんに有害な可能性がある。

※ 原則、尿検査で確認が必要（妊娠4週以内は検査で陽性にならない場合もある）。

※ 月経中と本人が認識している場合も、その出血が不正性器出血の可能性もある。

→ 妊娠に伴う腹痛の場合に考える疾患：子宮外妊娠、流産、早産 など



## ② もともと元気な子供

うまく表現できないことがあるので、腹痛以外の症状が原因であることもある。

子供の腹痛で最も多いのが**便秘症**。痛みの程度と場所に波があり、便がでると元気になるのが特徴。

男児の突然の下腹部痛は**精巣捻転**の可能性もある。緊急手術が必要になる。

## ③ 男性と女性による臓器の違い、年齢による疾患の頻度、過去の病歴を考えて診断する。

男性と女性で腹腔内にある臓器が異なり、腹痛をきたす疾患も異なる。

それぞれの臓器に伴う病気は好発年齢が異なるので年齢も考慮する。

過去の病気が原因で腹痛をきたすことがある。



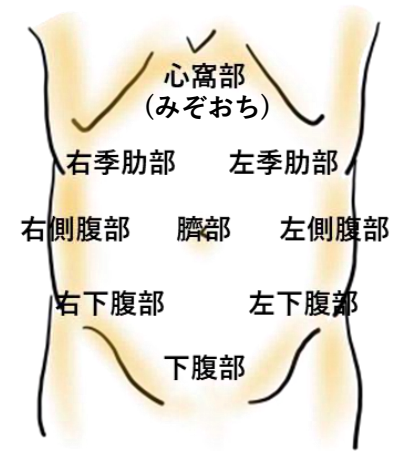
# 腹痛に対する考え方 ②

痛みがある場所をふまえて、様々な疾患を考える。

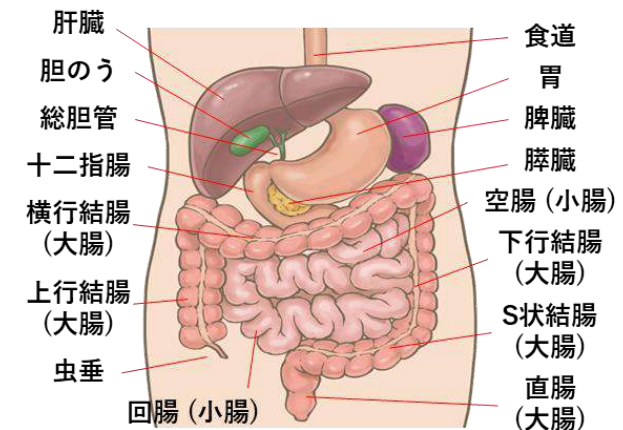
心窩部痛	逆流性食道炎、胃・十二指腸潰瘍、胃炎、胃癌、膵炎、急性虫垂炎初期（関連痛） アニサキス症、心筋梗塞、狭心症、大動脈解離
右季肋部痛	胆のう結石症（胆石発作）、胆道感染症（総胆管結石など）、胆道癌、十二指腸潰瘍 肝臓癌、尿管結石、フィッツヒューカーティス症候群
左季肋部痛	膵炎、膵癌、胃潰瘍、尿管結石
臍部痛	急性腸炎、腸閉塞症、腸間膜動脈閉塞症、動脈瘤破裂、臍ヘルニア
右下腹部痛	急性虫垂炎、大腸憩室炎、鼠経ヘルニア（鼠経部：またのところ）
左下腹部痛	虚血性腸炎、大腸憩室炎、便秘症、鼠経ヘルニア（鼠経部：またのところ）
下腹部痛	感染性腸炎、過敏性腸症候群、S状結腸捻転症、膀胱炎、尿路結石 ※ 女性：卵巣捻転、卵巣嚢胞出血、骨盤内炎症症候群、月経困難症、子宮外妊娠、排卵痛

腹痛は、痛みの場所に位置する臓器に問題がある場合もあります  
しかし、それ以外の疾患もありうるので検査が必要になります。

体表



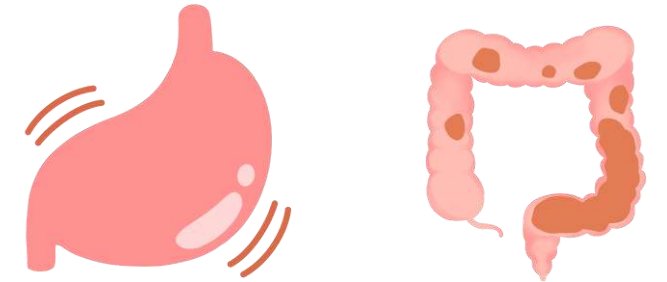
腹腔内臓器(へそ側の臓器)



# 腹痛に対する考え方 ③

痛みの性状や併存する他部位の痛みををふまえて、様々な疾患を考える。

- ① 痛くなったり痛くなくなったりする
  - 筋肉が収縮する痛み（腸の蠕動痛など）のことが多い。
  - 便秘症、感染性胃腸炎、胃痙攣、胆のう結石症、尿管結石 など。



- ② 他の場所(胸や背中など)にも痛みがある
  - 関連痛を伴う疾患、背中側の臓器の疾患の可能性もある。
  - 急性虫垂炎、胆のう結石症、胆嚢炎、膵炎、尿管結石症、大動脈解離、狭心症、急性心筋梗塞 など。





# 腹痛に対する考え方 ④

## 腹痛をきたす特殊な疾患を考える。

- ① ストレス：自律神経機能の乱れが原因で腹痛や便秘異常を引き起こしやすくなる。
- ② 糖尿病性ケトアシドーシス：糖尿病に一時的な高血糖、意識障害、腹痛を併発する場合がある。
- ③ IgA血管炎：腎炎に紫斑を伴う疾患で子供に多い病気。関節痛や腹痛を伴うことがある。
- ④ 急性白血病：脾臓が腫れたり、膵炎を起こしたりして、腹痛を伴う場合がある。
- ⑤ 帯状疱疹：お腹の皮膚に発疹がでて、腹部の痛みを伴う。
- ⑥ 急性副腎不全：ホルモンを分泌する副腎の病気。嘔気、下痢、腹痛、発熱などの症状がでる。
- ⑦ 高カルシウム血症：様々な病気で血中のカルシウムが上昇し、腹痛やのどの渇きなどの症状がでることがある。



ストレス



糖尿病(インスリン使用中)



紫斑



帯状疱疹

# 必要な検査

---

- ① **血液検査(採血)**：炎症反応、臓器機能、凝固能、血糖値等を測定し臓器異常を見つける。
- ② **尿検査**：尿路系の疾患を推定可能。妊娠反応検査等もできる。
- ③ **腹部X線検査**：腸管のガスの分布状況や異常臓器の推定が可能。
- ④ **腹部超音波検査**：体に侵襲がなく、臓器を観察可能。お腹の中の状況次第では観察困難な場合がある。
- ⑤ **腹部CT検査**：客観的にお腹の状況が分かる。設備のある比較的大きい病院でしか施行できない。
- ⑥ **心電図検査、心臓超音波検査、胸部X線検査**：腹痛の原因を検索するためにお腹以外の検査も行う。

腹痛の原因を調べて最適な治療を行うには、腹痛の性状などの問診に加えて、検査が必要です。  
気になる症状がありましたら受診をお願いします。